

論文

滋賀県の里親支援の現状と課題 ～里親アンケート調査から～

森本美絵
(京都橘大学)

要約：本研究の目的は、滋賀県の里親等が、現在実施されている里親支援をどのように受け止めているかを明らかにし、課題を提示することである。そのために、本研究では、里親等を対象に実施したアンケート調査の選択式設問を単純集計し自由記述を参考に分析・考察した後に、里親等に提示して検討した。最後に、里親支援機関・者等で構成される実務者会議で報告し、助言等を得た。その結果、支援全部に対して、満足している里親が不満足な里親より多く、全体として満足していた。個々の支援については課題も見出されたが、40%弱の里親委託率を支える上で、現行の里親支援は重要な役割を果たしていることがわかった。課題は、未委託里親の活用の不十分さ、児童相談所と里親等との信頼関係が十分でないこと、里親制度の普及・啓発等の広報活動への財源保障の不安定さ等であった。

キーワード：滋賀県、里親、里親支援、里親支援機関、里親会

1. はじめに

2016年改正児童福祉法において、子どもの家庭養育優先原則が明記され、「新しい社会的養育ビジョン」では、その取り組みを通じて「子どもの最善の利益」の実現を図るように里親委託率の数値目標が示されたが、現実の委託率との隔たりは大きい。

滋賀県の里親委託率は、全国的にも高い数値を維持しており、39.3%(2017年12月)である。この委託率は、新潟市、静岡市、福岡市について全国4位、県レベルで1位であるが、「新しい社会的養育ビジョン」で示された数値目標は、倍近いものである。しかも、滋賀県の虐待相談件数は6,392件(2017年3月末)で過去最高値を示し、増加の勢いである。重い課題を抱えた子どもの委託が増えることは自明である。2017年11月厚生労働省社会保障審議会児童部会社会的養育専門委員会児童部会での都道府県推進計画の見直し要領の策定に向けた議論では、数値目標を示すことについて、様々な意見が出されたが、学識者の立場から宮島清は「『まずは里親の支援体制の目標を作るべき。高い目標を掲げれば、家庭養護の質が下がり危険』と警鐘を鳴らした(福

祉新聞, 2017)。」が、目標の里親委託率を支えるだけの里親支援体制を敷かなければ、養育基盤である里親家庭の揺らぎを招き、養育不調の発生を招くことになりかねない。厚生労働省子ども家庭局長通知(2018年7月)「都道府県社会的養育推進計画」の中で里親委託率の目標について、国における目標を念頭に各都道府県において現行の計画を上回る数値目標を設定し進捗管理を行うとされた。

ところで、滋賀県の里親支援については、森本・宮里(2014)が2009年度から2012年度までの4年間の里親支援体制の経年変化と実践・実績から課題を析出している。また、全国里親委託等推進委員会の調査報告(2014)は、里親支援機関小鳩会の取り組みを詳しく報告している。伊藤嘉代子(2017)は、県子ども・青少年局と中央子ども家庭相談センターへのヒアリングにより、里親支援体制の特徴について報告している。こういった調査研究等により、滋賀県の里親支援体制や支援内容については明らかになっている。2020年度よりフォスタリング機関事業を開始する上で、地域の実情を踏まえた独自の数値目標と達成期限を定め、それに適した里親体制を敷くために、また、里親養育の質・量を次の段階へと高めていくために、支援を受ける里親等から現在の里親支援の評価を得ることは、有意義であると考えられる。

2. 研究目的、研究方法、倫理的配慮

(1) 研究目的

滋賀県の里親等が、現在実施されている里親支援をどのように受け止めているかを明らかにし、評価と課題を提示することで、フォスタリング機関事業の準備において、エビデンスに基づいた資料を提供することである。

(2) 研究方法

里親支援の実践内容については、先行調査研究、行政および里親支援機関等の各種報告書、里親連合会事務局へのヒアリングをもとに整理した。また、里親支援の現状評価は、里親連合会加入の里親へのアンケート調査による。

アンケート調査方法は、「滋賀県における里親支援の実態アンケート調査票」を里親連合会から送付していただき、回収は個々の里親から森本研究室への返送である。2017年7月7日に発送し、約1ヶ月間を回収期間とした。里親による自記入形式とし、設問数は92問(選択式設問73、記述式設問19)である。

分析および考察は、最初に、選択肢設問を単純集計し自由記述を参考に分析・考察した。次に、それらを被支援者(里親連合会事務局、ファミリーホーム事業者)に提示し、助言等を得た。最後に、支援者(里親委託等推進員、里親支援専門相談員、心理的ケア等養育指導員、子ども家庭相談センターの里親担当児童福祉司、子ども・青少年局の里親担当職員)により構成される実務者会議で報告し、助言等を得た。このように、被支援者と支援者の双方より意見等を得て分析・考察を進め、データ解釈の

客観性を担保した¹⁾。

なお、本論では紙面の都合上、回答者の基本情報と未委託里親研修から措置解除までの支援、地域社会で里親養育・里子の育ちを支える環境整備（里親制度の普及と理解）の設問へのアンケート結果を取りあげている。また、それら結果のうち、自由記述については記載を割愛している。

（3）倫理的配慮

調査票の内容は、アンケート実施前に里親連合会事務局と里親支援機関に確認した。また、里親連合会総会（出席者-里親会加入の里親、里親支援機関支援者、里親支援専門相談員、子ども・青少年局、子ども家庭相談センター）で、趣旨・内容を説明し協力依頼した。個々の里親には、アンケート調査票に、回収をもって研究協力の承諾とする旨を記載した文章を添付した。

分析・考察では、個人情報に十分に配慮するとともに、調査結果および分析等すべてを里親連合会事務局に提示し個人が特定されないことを確認した。

2. 滋賀県の里親支援

（1）社会的養護の現状（2017年2月1日現在）

滋賀県には、児童福祉施設4箇所と乳児院1箇所がある。表1に示したように、施設への委託率は58.6%であり、里親等委託率は41.4%である。

滋賀県は、子どもの生活環境の継続性を保障するために、各中学校区に1世帯以上の里親登録を推進しており、全中学校数の約78%に登録里親が存在する（2016年7月現在）。また、全市町数は、13市6町（図1参照）であり、里親登録数の多寡は地域により差はあるが、全域に里親世帯は存在する。

表1- 子どもの委託先と子ども数（2017年3月末）

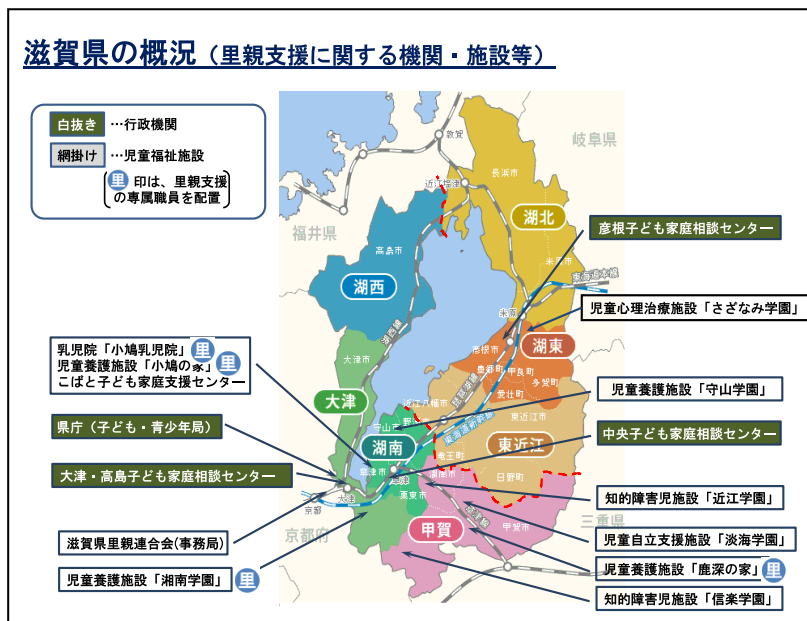
養育形態	子ども委託の施設・里親等		委託児童数		委託率
家庭養護 (里親等)	里親	47世帯	57名	121名	41.4%
	ファミリーホーム	15世帯	64名		
施設養護	乳児院	1箇所	32名	171名	58.6%
	児童養護施設	4箇所	139名		

出典：平成29年度 第1回滋賀県里親委託等推進協議会の配布資料「滋賀県における里親委託の現状」をもとに筆者作成

（2）里親支援に関わる機関・施設

これら里親家庭への支援は、図1に見るように、里親支援機関（社会福祉法人1箇

所と里親連合会) と3施設に配属されている里親支援専門相談員、2箇所の児童相談



所である。本県の社会的養護の児童福祉施設等の立地の特徴は、子ども・青少年局（県庁内）、里親連合会の事務局をはじめ、ほとんどの児童福祉施設と里親支援に関わる期間等は、琵琶湖の南部に偏在することである（森本・宮里, 2014, 88-90）。

出典：H29. 6. 17 滋賀県里親連合会総会 配布資料「滋賀県の概況（里親支援に関する機関・施設等）」を筆者により一部改変。

図1-里親支援に関わる機関・施設等(2017年3月)

(3) 里親支援の内容

表2にみるように、里親支援機関事業（現、里親支援事業）は、社会福祉法人小鳩会と里親連合会に県より委託されている。その他に、里親連合会が独自の事業を実施している。里親支援は、子どもが委託されるまでの支援（未委託里親研修）、子どもと里親とのマッチング過程の支援、子ども委託直後の支援（里親家庭応援会議）、子ども委託中の支援、里親制度普及啓発（里親養育環境整備）の5つの局面で実施されている。

表2-里親支援事業（2017年3月末日）

里親支援機関	県委託事業		独自の財源事業
	委託事業の名称	実施上の事業名	
小鳩会	里親委託等推進員の設置 里親委託児童心理的ケア等 養育指導員の設置 里親家庭に対する養育相談 里親等養育者への養育力向	里親委託等推進員、里親委託児童 心理的ケア等養育指導員の配置 ・個別相談・指導（訪問相談・来 所相談・電話相談・メール相談）	独自の財源事業はない。

	上、レスパイト・ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク（ジョシ会、スマイル・キッズクラブ） ・他機関連携 ・養育里親研修 ・レスパイト・ケアの調整、 ・施設入所児童ホームステイ事業の調整 ・研修の企画（未委託里親研修） ・機関誌「つなぎあい」の発行 	
里親連合会	<ul style="list-style-type: none"> 里親委託等推進員の設置 未委託里親の啓発 家事等支援員の派遣 里親養育相互援助（ピア・カウンセリング、家庭養護の普及促進（フォーラム） 関係機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 里親委託等推進委の配置 ・未委託里親啓発事業 ・家事援助員派遣事業（利用実績がなく、実施していない） ・里親養育相互援助（ピア・カウンセリング）事業、 ・里親サロン ・家庭養護促進事業（フォーラム） 	<ul style="list-style-type: none"> ・里親・里子交流会 ・機関誌「里親だより」の発行 ・里子交流会 ・委託・未委託里親研修会 ・ファミリーホームの連絡協議会の定例会 ・ファミリーホームの連絡協議会の勉強会

出典：平成29年度第1回滋賀県里親委託等推進協議会配布資料の平成28年度「滋賀県里親支援事業実施要綱」、平成28年度「家庭養護促進事業実績報告書」滋賀県里親連合会、平成28年度「社会福祉法人小鳩会こぼと子ども家庭支援センター 里親支援事業部・年間業績報告書」をもとに筆者作成。

里親連合会の独自事業は、「平成29年6月17日第44回 滋賀県里親連合会総会」資料より抜粋。

4. 里親による里親支援評価-里親へのアンケート結果、分析・考察

(1) アンケート結果の妥当性

a. 回収率及び回答里親の属性

- ①配布数と回収率：145里親（里親会加入）に送付。回答数70件、回収率48%。
- ②回答里親（アンケート協力里親）の内、養育経験（ホームステイ、一時保護委託を除く）里親は44名。回答里親の64%。
- ③回答里親の現在養育の子ども数は57名。里子数全体の50.4%。
- ④回答里親の内、未委託里親（委託措置、ホームステイ、一時保護委託、どの経験もない里親）は17名。未委託里親の約55%。
- ⑤回答里親の居住地（図1参照）は湖北地域28%、湖東地域16%、湖南地域31%、湖西

地域 17%。

⑥現在養育中の里子の性別比率は半々。

⑦回答里親の年齢は 30代 6%、40代 26%、50代 31%、60代 25%、70代以上 12%。

⑧養育中の里子の学齢等は幼児 13%、小学生 39%、中学生 24%、高校生 24%。

b. 研究結果の妥当性

回収率 48%、回答里親の居住地は、県全体にわたり、年齢にも大きな偏りはない。また、回答里親が調査当初養育中の里子数は、滋賀県の里親委託児童数の 50%強であり、児童委託中の里親の 47%である。養育中の里子の性別に偏りはなく、学齢も幼児から高校生に及んでいる。

以上から、アンケート回答の里親数及び属性からみて、本アンケート結果は、滋賀県の里親支援の大凡の現状評価を示していると考ええる。

(2) 里親支援に対する全体的な評価

a. 里親への支援事業に対する満足度

里親認定・登録後から措置解除までの 13 の里親支援に対するアンケート調査結果を表 3 に整理した。未委託里親研修(表 3 の①②)、里親候補者と子どもとの相性をみるマッチング過程での支援(表 3 の③④)、里親委託時直近に開催される里親家庭応援会議(表 3 の⑤)、養育中の相談支援-対面相談(支援者の訪問相談・里親の来所相談。表 3 の⑥)、非対面相談(電話相談、メール相談、手紙相談。表 3 の⑦)、レスパイト・ケア(表 3 の⑧)、里親サロンとピア・カウンセリング(表 3 の⑨)、里子・里親交流会(表 3 の⑩)、機関紙「つなぎあい」(表 3 の⑪)、機関誌「里親だより」(表 3 の⑫)、フォーラム(表 3 の⑬)である。4 択で調査した結果は以下(表 3)である。

表 3-里親への支援事業に対するアンケート結果

	未委里親研修		マッチング過程		⑤里親 家庭応 援会議	個別相談	
	①小鳩会	②里親連合会	③施設での	④一時保護 施設での		⑥対面相談	⑦非対面相談
回答者数	28 名	37 名	34 名	26 名	25 名	33 名	19 名
とても満足	39%	14%	32%	15%	14%	22%	18%
まあ満足	61%	72%	32%	62%	71%	67%	53%
ややよくない	0	14%	30%	15%	11%	11%	23%
よくない	0	0	6%	8%	4%	0	6%

	⑧レスパイト・ケア	⑨里親サロン、ピア・カウンセリング	⑩里子・里親交流会	⑪機関誌「つなぎあい」	⑫機関誌「里親だより」	⑬フォーラム
回答者数	15名	34名	34名	56名	61名	33名
とても満足	62%	12%	21%	20%	22%	24%
まあ満足	38%	74%	79%	67%	72%	70%
ややよくない	0	11%	0	7%	5%	0
よくない	0	3%	0	6%	2%	6%

b. 里親への支援事業に対する全体的評価

表3の13の支援全部について、満足している里親が不満足より多く、全体として満足しているといえる。相対的に評価の低い支援(とても満足、まあ満足の合計が80%未満)は、マッチング過程(施設での里親、一時保護施設での里親)での支援、電話・メール等の非対面相談の支援である。一方、満足度(とても満足、まあ満足の合計)100%の支援は、未委託里親研修(小鳩会主催)、レスパイト・ケア、里子・里親交流会である。40%近い里親委託率を支える上で、現行の里親支援は重要な役割を果たしているといえる。

(3) 里親支援の13事業における満足理由

a. 表3①～⑬の主な目的・内容について支援事業の内容・目的

以下に、13の主な支援事業内容について、表4に整理した。

表4-里親支援事業の主な目的・内容

	未委託里親研修		マッチング過程の支援	⑤里親家庭応援会議
	①小鳩会	②里親連合会	③施設での ④一時保護施設での	
主な目的・内容	児童福祉施設で、前半は里親が施設で暮らす乳幼児と交流。後半は小グループで、その振り返りと里親養育についての意見交流。	前半は、子どもを主体とした関わり方を学ぶ講演。後半は、未委託里親と委託里親との交流。	子ども、里親双方の其々の思いを受け止めながらマッチングを進め、施設等での子どもの様子を伝え、必要ならば養育についての助言をする。	委託後の里親支援に関する方針や関係者間の役割分担の確認に里親も参加し、地域支援連携体制を確認する。

⑥対面相談	⑦非対面相談	⑧レスパイト・ケア	⑨里親サロン、ピア・ピアカウンセリング
里親家庭への訪問相談。里	電話相談、メール相談、手紙相談。	子ども委託中の里親が一時的な休息等を	里親の交流により親睦を深めるとともに、里子養育等に係る悩みの相談等を介してお

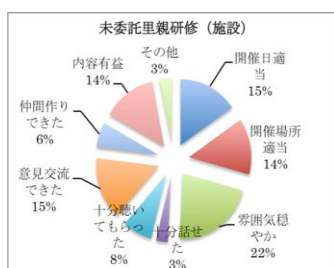
親が支援機関等に出向いて相談。		必要とする場合に、里親等や施設で預かり、養育代行する。	互いの理解を図り、里親同士のつながりを作る。ピア・カウンセリングは、これから子どもを預かることを前提としての講演会。
-----------------	--	-----------------------------	--

⑩里親・里子交流会	⑪機関紙「つなぎあい」	⑫機関紙「里親だより」	⑬フォーラム
ジョシ会、スマイル・キッズ、里子交流会、里親・里子交流会。里子同士のつながりを育てるために、里子同士の交流を図る。また、里親、里子の交流により親睦を深め、養育上の悩み、相談等のできる仲間作りを促す。	こばと子ども家庭支援センターの活動展開や事業の具体的内容を掲載し、本事業を周知する。里親の養育体験談を掲載する。	里親制度の広報、啓発と会員同士の情報の場を提供する。	家庭養護の普及啓発、地域で生活する里親家庭への理解を促し、里親を開拓する。里親の経験談、講師による講話。

出典：平成29年度第1回滋賀県里親委託等推進協議会で配布資料の平成28年度「社会福祉法人小鳩会こばと子ども家庭支援センター里親支援事業部・年間業績報告書」全国里親委託等推進委員会(平成26年)、平成29年6月17日第44回 滋賀県里親連合会総会の資料、全国里親委託等推進委員会(2014)『里親支援専門相談員および里親支援機関の活動、里親サロン活動に関する調査報告』、里親連合会事務局へのヒアリングをもとに筆者作成。

b. 里親支援の13事業の満足理由の分析、考察

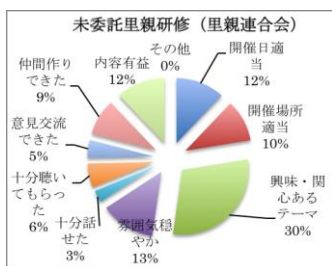
① 未委託里親研修（小鳩会実施）



満足理由上位2つは「雰囲気が穏やか」22%、「お互いに意見交流できた」15%、「開催日適当」15%である。支援者らの配慮と子どもを介しての交流が雰囲気をおだやかにしていると思われる。続いて「内容有益」14%、「開催場所適当」14%である。委託前に社会的養護にある子どもとの触れ合いがよかったようである。より満足

度を高くするには、という設問では、委託要件（どうしたら委託されるか）の教示を期待する声があるが、研修目的にはないことから、その声には応えられていない。

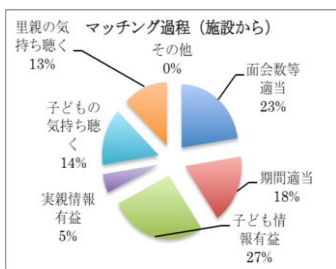
② 未委託里親研修会（里親連合会実施）



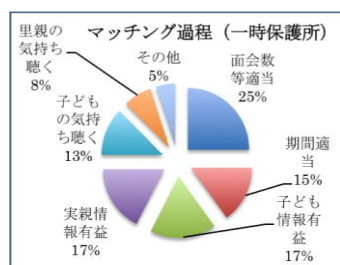
満足理由上位2つは「興味関心あるテーマ」30%、「雰囲気穏やか」13%である。未委託里親は、どう子どもに関わればよいか、ということに不安を抱いており、講演テーマはそれに応えられている。委託里親と未委託里親の交流については、「仲間作りできた」9%、「十分聞いてもら

った」6%、「意見交流できた」5%は低い数値である。より満足度を高くするには、という設問では、意見交流の時間が十分ほしいという声がある。子ども委託の経験ある里親と未委託里親の繋がりつくりを意図しているが、講演時間と話し合いの時間の配分が適切でないようだ。

③④ マッチング過程の支援（③施設での、④一時保護施設での）



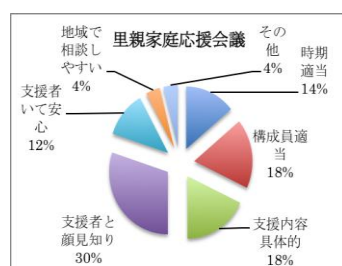
③施設から：満足理由上位2つは「子どもの情報有益」27%「面会回数適当」23%である。対して「実親情報が役立つ（有益）」3%と低い。日々の養育から得られた情報提供は里親が子どもと関わる上で役立っている。実親情報は、児童相談所ソーシャルワーカーによることから施設からの情報は少ないので、低い数値となっている。



④一時保護施設から：満足理由上位2つは「面会回数等適当」25%、「子ども情報有益」17%、「実親情報有益」17%である。対して「里親の気持ち聴く」8%と低い。児童相談所ソーシャルワーカーを介して里親が子どもや実親の情報を得やすい一方で、児童相談所に措置権があることから里親が遠慮して気持ちを伝えきれていないようだ。こ

ういった里親の心理に配慮する必要がある。なお、より満足度を高くするには、という設問では③④ともに、子どもの情報をもっと欲しいという声がある。

⑤ 里親家庭応援会議

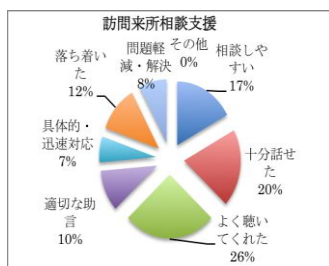


満足理由上位2つは「支援者と顔見知り（地域の支援施設・機関や支援者と知り合えた）」30%、「支援内容具体的」18%、「構成員適当」18%である。対して「地域で相談しやすい（その後何かと地域で相談しやすかった）」4%と低い。地域の支援機関と面識を得ることで、安堵感を得られているが、実際の地域での里親支援には

繋がっていないようだ。伊藤は、里親の理解者・支持者が複数いることの重要性を指摘している（2015, 21）が、里親家庭応援会議は、里親子にとって最初の公的な地域デビューの機会であり、複数の理解者・支援者を得る機会であるので、ケースによってはどの程度までの情報共有とするか判断に悩むこともあるようだが、里子養育チームを地域で形成する重要な機会であるとの認識を一層高める必要がある。

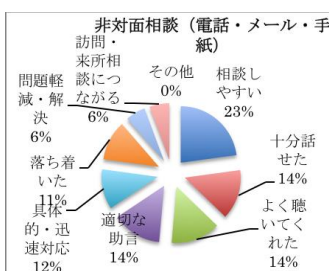
⑥ 対面（訪問・来所）相談

満足理由上位2つは「よく聴いてくれた」26%、「十分話せた」20%である。対して「問題軽減・解決」6%と低い。支援者は、里親の養育力を引き出し、問題解決力を育てよう（エンパワメント）としているが、具体的な助言・迅速な対応による問題軽減・解



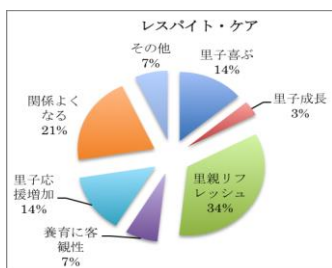
決を求めるニーズもある。支援者は、地域にある社会資源に精通し資源を取り出す力も求められる。既述した（上記⑤）ように、里親家庭応援会議は、支援者にとっても地域資源を熟知する機会であるとの認識を高め、具体的対応を求める里親ニーズに応えていく必要がある。

⑦ 非対面相談



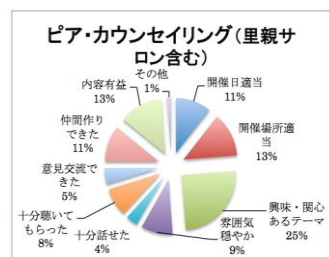
満足理由上位2つは「相談しやすい」23%「十分話せた」14%、「よく聴いてくれた」14%、「適切な助言」14%である。こうした受容・共感的態度が、対面相談につながっているようだ。非対面相談体験里親の約9割が、対面相談も利用している。対面相談を補足しているといえる。

⑧ レスパイト・ケア



満足理由上位2つは、「里親リフレッシュできた」34%、「里親と里子の関係改善よくなる」21%である。里親のリフレッシュが里親と里子の双方に有益であり、良好な関係性への維持、改善、向上につながったことが満足100%（とても62%、まあ38%）の高い評価に繋がっているようだ。より満足度を高くするには、という設問では、安全・安心して預けられる里親を紹介してほしい、預け先への迷惑度合いが気になり気を遣った、という声がある。利用者は満足100%であるが、利用者数は多くない。背景に、利用手続きをする上での使い勝手の悪さ、預け先（施設、里親）選定の苦慮がある。

⑨ ピア・カウンセリング（里親サロンを含む）

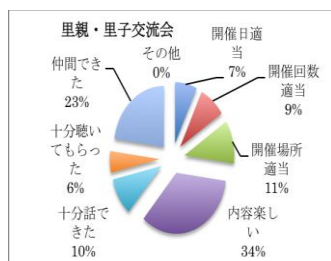


満足理由上位2つは、「興味・関心あるテーマ」25%、「内容有益」11%、「開催場所適当」11%である。対して「意見交流できた」5%「十分話せた」4%は低い。

里親の状況に応じた有益な話を聞きたいという要望にはある程度応えられているが、里親同志の相互交流を深め仲間づくりを望む声には応えきれていないようだ。より満足度を高くするには、という設問では、未委託と経験ある里親、養子縁組などに分けての開催、遠方には出かけにくいので近場での開催を求める声がある。滋賀県は交通アクセスが悪く移動を車に頼る傾向がある。里親サロンの開催は、4地域（湖北、湖東、湖南、湖西）でそれぞれ開催することから比較的参加しやすい場所、日程となっているようだが、講演会の開催では、場所の選定が課題である。また、里親の状況により、

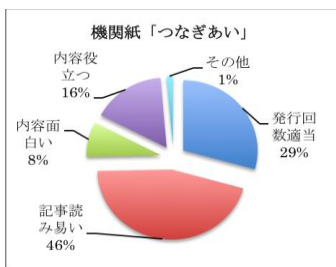
関心事が異なる事も考慮しての里親サロン開催も必要である。

⑩ 里親・里子の交流会



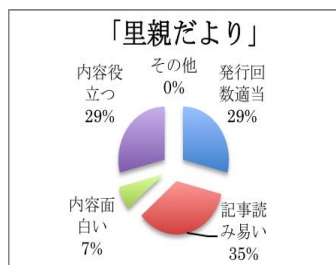
満足理由上位2つは「内容が楽しい」34%、「里親仲間ができた」23%である。「開催日適当」7%「開催回数」9%は低い。より満足度を高くするには、という設問では、日々の生活の様子をリアルタイムで話せる場がもっとほしい、子ども同志の交流の機会はもっと回数があってもよい、他の里子達と交流できる良い機会だから続けてほしい、参加してよかったようです、という声がある。滋賀県は交通アクセスがよくないこともあり、里子の参加には里親の送迎が必要なこともある。里親に里子同志の交流や仲間づくりも大事であるとの理解を図り協力を求めることも必要である。

⑪ 機関誌「つなぎあい」



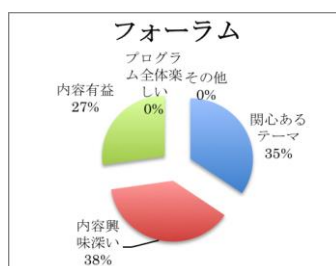
満足理由上位2つは「記事が読みやすい」46%、「発行回数適当」29%である。事業の予定、事業実施後の報告等の発行を重ねて工夫されており、分かりやすく記載されている。里親の体験談は興味を引く記事であり養育の学びにもなる。しかし、里子の私生活に触れる内容を伴うので、掲載には慎重さが求められる。

⑫ 機関誌「里親だより」



満足理由上位2つは「記事が読みやすい」36%「内容役立つ」29%である。里親の立場から里親制度にかかわる記事が掲載されているからのようだ。配布対象は、県内の里親会員、民生・児童委員、里親支援関係機関等、教育関係機関・施設等である。地域社会への広報活動の一翼を担っているが財源確保に不安がある。

⑬ フォーラム



満足度理由上位2つは、「内容興味深い(講師の話が興味深かった)38%「関心あるテーマ」35%である。参加者の多くが、市町の民生・児童委員であることから、もっと広く一般の参加者を募る工夫が必要である。

5. アンケート結果全体からみえてきた今後の課題

①滋賀県の未委託里親の考え方は、受け入れ希望がありながら委託されていない里親

とし、25.2%(2017年2月1日)である。これは、毎年、里親が暮らす地域の管轄域の子ども家庭相談センターより里親に送付される「里親委託にかかる受け入れ意向調査票」をもとに算出している。未委託里親を単純に、里子養育をしていない里親(受入希望なし世帯、意向不明世帯、受入希望はあるが委託なし世帯)と考えるならば、60.5%である。どの里親も登録時は受け入れたいと思っていたはずである。現在希望なし世帯17.3%、意向不明世帯17.9%といった数値は、里親側の状況変化(例えば、里親の加齢や疾病、介護の必要)だけが理由ではないように思われる。十分に里親を活用しきれていないこと、子ども委託先候補里親の選定過程・基準の透明性が十分に担保されていないことが課題である。

②マッチング過程の支援、委託時支援(里親家庭応援会議)において、里親等はスムーズな養育への移行、支援の具体化をはかる上で、子ども・家族等の情報の共有を求めるが十分ではなく、地域関係機関(者)と具体的な支援の共有にまでは至っていない。それは、対面・非対面の相談において、具体的な支援を求める里親のニーズに十分に答えられていない現状とつながるところがある。

これら①②の課題の根底には、児童相談所と里親等との信頼関係が十分に醸成されていない現状があるようだ。また、滋賀県は、琵琶湖の南部に機関・施設が偏在し、交通アクセスも良くないので、市町レベルでの支援体制の形成が里親の求める支援の具体性、即応性、容易性を担保することになるが、具体的な連携には至っていないようだ。

③孤立した養育は、独善的な養育や不適切な養育につながる。レスパイト・ケアの利用、里親・里子交流会への参加は、里子養育や自分の育ち等を振り返る機会や余裕をもたらす。レスパイト・ケアの利用者は少ない上に施設利用の方が多い。その背景には、制度利用の簡便性・柔軟性の課題と、里親同志の交流を促す支援において、里親・里子の仲間作りを期待するニーズに応えきれていないという課題がある。

④里親制度の普及・啓発等の広報活動は、里親のリクルートや地域を里親の養育・里子の育ちを側面から支える上で重要である。もっと力をいれるべきであり、財源の保障や実施方法についての課題がある。

5. おわりに

本研究では、里親へのアンケートを通して、里親支援の現状と課題を提示した。個々の支援には、それぞれの課題が見出されたが、里親等は全ての支援に対して高い満足度を示しており、40%近い里親委託率を支える上で、現行の里親支援は重要な役割を果たしていることが明らかになった。都道府県推進計画を見直す上で、滋賀県の実情にあった適切な数値目標の設定に役立てていただくことを願っている。また、本研究から見出された個々の支援に対する課題解決には、多くの里親等からの発信が必要であ

るとの思いから『滋賀県里親支援活用帳』（発行日 2018 年 3 月末日）を里親会有志と作製し、里親と支援機関等に配布したところである。

<謝辞>

本調査研究にご協力賜りました滋賀県里親連合会事務局および里親さん、里親支援事業実務者会議（児童相談所ソーシャルワーカー等、里親支援機関・支援職員、里親支援専門相談員）の皆様さまには、心より御礼申し上げます。

<注>

1) アンケート結果の全部については、2018 年 5 月 30 日に『アンケート調査による滋賀県の里親支援の現状評価』報告書に掲載している。

<参考文献>

- ・伊藤嘉余子(2015) 「里親の成熟度プロセスに影響を及ぼす里親支援」『子ども家庭福祉学』14, 13-23.
- ・伊藤嘉余子(2017) 「2」滋賀県：児童相談所のリーダーシップを発揮した里親制度推進」『里親支援にかかる効果的な実践に関する調査研究事業報告書』平成 28 年度厚生労働省 子ども・子育て支援推進調査研究事業 課題番号 1, 122-127.
- ・全国里親委託等推進委員会(2014) 『里親支援専門相談員及び里親支援機関の活動、里親サロン活動に関する報告書』82-108.
- ・特定非営利活動法人 バディチーム(2016) 『里親支援に求められる養育支援とその課題に関する研究報告書』平成 27 年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業調査研究 課題番号 14, 123-129.
- ・福祉新聞総編集部(2017 年 12 月 6 日) 「里親委託率、数値目標入るか意見対立 都道府県推進計画の見直しで」福祉新聞.
- ・宮島清・林浩康・米沢普子(2017) 『子どものための里親委託・養子縁組の支援』赤石書店.
- ・森本美絵・宮里慶子(2014) 「滋賀県の里親支援体制の現状とその実際-2009 年度～2012 年度の調査から-」『京都橘大学研究紀要』第 40 号, 85-106.